

## 夢はでつかく 根はふかく

校・園長 鎌田 明美

児童・園児の皆さん、卒業、卒園、そして進級おめでとうございます。この一年間、本当によくがんばりました。大きく自信をつけた人もいれば、来年度へ課題を残した人もいるかもしれませんが。友達と仲良くできた人もいれば、思ったことをうまく伝え合うことができなかった人もいます。しかし、その時その時にいろいろと考え悩んだことは、皆さんを大きく成長させてくれました。保護者の皆様におかれなくても、この一年、日々のお子様の活動の様子には、一喜一憂されたことでしょう。しかし、こうして、卒業、卒園、進級と節目を迎えることにより、その成長にひしひしと喜びを感じていらっしやることと思います。

さて今年度は、五月に、元号が平成から令和に改められました。「令和」の出典は、日本最古の歌集「万葉集」です。「万葉集」巻五に収録された梅花の歌の序文に、  
く初春の令月にして、気淑（よ）く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薫らす（時あたかも新春の好き月（よきつき）、空気は美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉（おしろい）のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている）

とあります。ここでは、「令」は「よい」という意味、「和」は「やわらぐ」という意味で使われています。これにより令和とは、平和で穏やかな印象を受ける元号です。「令和」の手話表現もたいへん興味深いです。出典となった万葉集の序文が花の美しさをたたえていることを踏まえ、「つぼみが開いて花が咲くように指先をゆっくりと開く動き」を「令和」の手話の表現として採用することに決められました。令和の時代に込められた願いのように、皆さんにも、穏やかに花が咲くような素敵な未来が待っています。

「夢はでつかく 根はふかく」という相田みつをさんの言葉があります。皆さんには、未来に向かって大きな夢を持ち、でつかい花を咲かせてほしいです。「夢」というのは、かなえない幸せのかたちなので、どんな幸せを望むかを考えてみるといいと思います。目標にしたい人物として、好きなスポーツ選手や芸能人、本で読んだ有名人、今まで出会った先生や家族などを思い浮かべる人もいいでしょう。または、今まで誰もなし得ていない何かをやりとげたいという壮大な目標を持っている人もいいでしょう。そして、咲かせたい花を咲かせるためには、根が大地に根付いていなければいけません。根が深く太くあればあるほど、茎や幹や枝が太く大きく育ち、咲かせたい花を咲かせるという夢がかないます。皆さんにとって、大事な今は今です。今、学校や園で学んでいること、それが根となります。いろいろな経験をし、たくさんの出来事に向き合って、しっかりと考え、一生懸命に取り組むことが、根を深く太く伸ばすことになります。

卒業、卒園、進級の門出を迎えた児童、園児の皆さん、素敵な未来に向けて根を深く太く伸ばすことができますように、これから学びに励んでください。皆さんのさらなる成長を願っています。

